

特集

がんの放射線治療

「切らずに治すがん治療」

放射線治療の長所

治療に伴う身体的な負担が少ない / 臓器を温存し機能を残すことができる

厚生労働省の調査でも示されるように、いまや日本人の2人に1人ががんにかかり、3人に1人ががんて亡くなる時代といわれます。まさに日本の国民病と言っても過言ではありません。がん治療の三大治療法といわれるのは次のとおりです。



なかでも最近とくに期待されているのが放射線治療です。

これはX(エックス)線やγ(ガンマ)線といった放射線ががん細胞に照射して細胞のDNAに傷をつけることにより、細胞死を引き起こしてがんを治療します。欧米では過半数のがん患者さんが放射線治療を受けています。日本はまだ25%程度にとどまっていますが、高齢者の増加や放射線治療の進歩に伴い、今後日本でも放射線治療を受ける患者さんが増えていくと考えられています。

● 外部照射、小線源治療の2つの治療方法

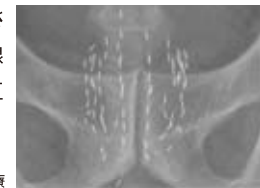
放射線治療には、体の外から放射線を当てる外部照射と体内に放射線の出る線源を挿入する小線源治療があり、本院では両者ともに多数の治療実績があります。

外部照射は治療による痛みもなく、通院治療も可能で、高齢や合併症などで手術が難しい人でも治療をすることができます。また近年放射線治療機器の技術革新、性能向上がめざましく、正常な細胞へのダメージを最小限にするピンポイント治療が可能になるなど、効果の面でも飛躍的に向上しています。治療の対象となる主な疾患としては、脳腫瘍、頭頸部がん、肺がん、乳がん、食道がん、前立腺がん、子宮頸がんなどです。

小線源治療は子宮頸がんや前立腺がんなどで大きな効果が見込まれており、治療の負担も少なく、例えば前立腺がんに対する小線源治療は体内に5mmほどの線源を前立腺に埋め込むので(下写真参照)、治療の翌日には普段と変わらない生活を送ることができます。

● 小線源治療

放射線を出す小さな線源を患部に密接させるか、埋め込んで照射する方法です。線源の配置はコンピューターにより制御され正確な照射が行われます。



前立腺がんに対する小線源治療

● 緩和治療にも有効

さらにはがんに伴う様々な症状を和らげる治療としても放射線治療は有効です。骨転移による痛みや、脳転移による様々な神経症状などに対し、短時間で負担の少ない治療をすることが可能です。

外部放射線治療装置(リニアック)



最新放射線治療装置「ノリスTX」導入

高エネルギーのX線を体の外から患部に照射し治療するもので、1日1回の治療を数週間行います。1回の治療は数分で終了し、痛みなどを感じることはありません。本院では今年最新の放射線治療装置の導入を予定しています。より低侵襲で高精度な治療をすることが可能となり、治療効果の向上と副作用の低減が期待されます。



説明は
徳島大学病院 放射線治療科 副科長

古谷 俊介(ふるたにしゅんすけ)

■問い合わせ
放射線科外来 Tel.088-633-9284